

令和5年2月 日

御宿町長 石田 義廣 様

御宿町総合計画策定委員会
委員長 井上 秀樹

第5次御宿町総合計画（原案）について（答申）（案）

第5次御宿町総合計画（原案）について、本策定委員会で慎重に審議を重ねた結果、妥当であると認めます。

なお、本総合計画の推進にあたっては、まちの将来像『ひと・マチ・自然が
つながりつなげる「ちょうどいいまち」御宿』の実現に向けて取り組まれるよう、
別紙の意見書を付して要望します。

意見書

第5次御宿町総合計画は、豊かな自然環境を守りつつ、住民の誰もが幸せを実感しながら暮らし続けることができるよう、行政と住民による協働のまちづくりをさらに推進することの重要性が示されています。

しかしながら、総合計画の認知度は高いとはいえず、住民との協働によるまちづくりを進めるうえでは課題となっていることから、あらゆる機会を通して広く周知する必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による地域経済への対応をはじめ、公的サービスの多様化、少子高齢化への対応、大規模災害に備えた防災体制の強化など、行政だけで対応できることには限界があるため、住民とともにまちづくりに取り組む必要性はますます高まっています。

つきましては、策定委員会において各委員から出された提言や意見をはじめワークショップによる思い・アイデアの集結、住民アンケートによる意識の把握、パブリックコメントの意見等を十分に踏まえ、第5次御宿町総合計画の将来像である『ひと・マチ・自然がつながりつなげる「ちょうどいいまち」御宿』の実現に向け、住民との協働を推進し、積極的かつ効果的に前期基本計画に取り組んでいただきますよう要望します。

(1) 本計画の趣旨と施策を広く住民に知ってもらうための効果的な周知に努めるとともに、住民、事業者、ボランティア、各種団体など、あらゆる主体間による協働のまちづくりを推進すること。

(2) デジタル化の推進や御宿町でできる持続可能なまちづくりへの取り組み、地域経済の発展と課題解決に向けた新たな技術の活用など、時代の流れに取り残されることなく効果的な事業の実施を横断的に取り組むこと。

(3) 本計画の実施については、取り巻く環境の複雑さや将来予測の困難性が増加する状況であることから、これまで以上に新たな手法の検討や取り組み方の工夫、先進事例の調査・検討を行うなど、知恵を出し合うなかで柔軟な執行体制の構築に努めること。